

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.03)

「幸福は笑う者を通り道に迎えに出る」

・・・笑う角には福来たる・・・

日本人は普段の生活態度からして、謹厳実直というか頬笑みというか、笑いというかが少ないように感ずる。このことは、かつての日本人に対してよく言われたことの一つとして、若干揶揄され皮肉を込めて言われた、国際会議などで、ただ単に、「にこにこしている、ニヤニヤしている」という作り笑いや、「にこぼん」などといわれる、迎合的な笑いとは違う、心から湧き出すものをいう。

微笑に関する当地の人の日常動作を見ていると、通常見かける日本人の行動と比較すると、メキシコ人の方が何かの折に出る微笑や、日々の挨拶などに醸し出される微笑など実に多彩である。

まかり間違えば、日本ではセクハラだなどと騒ぎ出す人もいるだろうと思うくらい、派手な振舞いで、老若男女を問わずお互いが抱き合い、頬笑みながら挨拶を交わす。子どもでも自然に頬を突き出す仕草をする。

ボラッチョ・ボニート氏の配属先でも、廊下などで出会うと朝の挨拶ばかりでなく、通常でも多くの人から、名前を呼ばれ声を掛けられる。

女性の比率が比較的高い職場なので、頬を寄せられてにっこりと挨拶され、時にはウインクなどされると、自分の年齢も忘れて、メキシコ人に比べては低いと思う鼻を思い切り長く伸ばし、目尻の皺をしこたま緩めて、当方も相手に合わせて、にっこりと挨拶を返すことに相成る。ここに自然と、コミュニケーションが成りたっている。

今ではこの動作は自然に出来るようになったが、最初にメキシコに来た当座は、こんな些細なことにもカルチャーショックを感じ、人がやるから仕方なしに、ぎごちなく応じていたというのが本音だろう。

そうは言っても、十人十色の人間界のことゆえ、すべてのメキシコ人が、上述のような特色を供えているわけではないのは当然で、常に苦虫を噛みしめたような人もいたり、絶えず不機嫌顔の人もいる。

しかし、相対比較で見た日常生活におけるこれらの笑いや態度の、日本とメキシコの彼我的落差は何だろうか。

何事にも陽気さを秘めているラテン民族と、大和民族の相違、生活習慣、個人が持っている不満など、要因はいろいろあるだろうが、社会学的な探求に興味の持てるところである。

今回のタイトルに採用したのは、「**La felicidad sale al paso de los que ríen**」(ラ フェリシダァ サール エアル パソ デ ロス ケ リエン と発音し、直訳的意味は表題の通りであるが、日本語の諺としては、サブタイトルのようなものだろう)という諺である。角と通り道の違いはあるものの、何と似ていることだ。

それだけに古の時代から笑いの必要性はわかっているのだろう。タイトルに述べられた効用が本当にあるかどうかは、魑魅魍魎が跋扈し、不透明感の多い世の中のゆえ分からないが、少しでも微笑を作ってボランティア活動に伴う生活を、有意義に過ごしたいと思っている。

日本では、落語や漫才などの笑いを含んだ古典芸能の分野ばかりでなく、川柳なども広く愛好され、また



は最近のテレビでのお笑い番組全盛といい、本来は、心の奥底に「笑い」というものに対する感受性は、十分有しているはずである。

そう思いつつも、現実に戻ってわが国で、このにっこの微笑を出来るだけ実施しようとするれば、当地で通用する流儀でも、日々報道される、ニュースなどから想像するに、「何よ！このおじいさん。にやにやして、いやらしいわね、ちょう、きもい、」と、内心こんな言葉を思い浮かべられ、睨み返されるか、「何だ、この親父、がんつけやがって」と、文句の一つもつけられかねない雰囲気の可能性大で、それを恐れる余り、相変わらず疲れきった仏頂面を通すことになるのだろうか。

老人の僻みと偏見で、勝手に想像して極端に誇張してみたのだが、「これに近いよ」と賛同いただくか、「いや、こんなには酷くないよ」と反論されるかはお随意であるが、後者の多いことを期待したい。

「にやにや」と「にっこり」は行動も表情も違うと思うのだが。

タイトルにもわざわざ採用したことだし、折角「笑い」を推奨している手前、「何と能天気なことを言っているのだ！この厳しい世の中で笑えることなんてないよ。またテキーラでも飲みすぎて、おだをあげているに違いない」と、笑い飛ばさないでいただきたい。

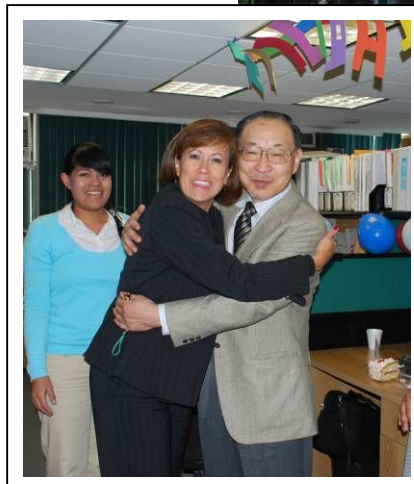
世の中には辛いことがあっても、「心で泣いて、顔で笑う」などの言葉もあるではないか。

いやあ、笑いのある人生って本当にいいもんですね～。サヨナラ！サヨナラ！サヨナラ！（二人の元著名な映画評論家の、テレビでの評論後の挨拶から借用した・・・相当の年代の人しか分からないと思う）

(20009年2月12日、〇〇歳の誕生日を、テキーラの杯を傾けながら)



市内観光名物の2階建て観光バスから見たメキシコ市中心部の日曜の賑わい・・・多くの笑いがあふれていることだろう



誕生日当日、朝出勤すると、天井には紙飾りと机の周りには、風船球の飾り、ケーキがおいてありました。ベロニカ部長からの祝福の抱擁(本人は笑いならぬ照れ笑い)